

平成30年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900089	事業の開始年月日	平成19年8月1日
		指定年月日	平成19年8月1日
法人名	医療法人社団 裕正会		
事業所名	グループホーム ウェルケアSun		
所在地	( 223-0058 ) 横浜市港北区新吉田東8-20-33		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成29年12月20日	評価結果 市町村受理日	平成31年3月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設されていた療養通所介護の閉鎖に伴い、空いたスペースを利用し6月にミュージックカフェ「アウリンコ」(フィンランド語で太陽)をオープンいたしました。発案者の音楽療法士、母体の管理栄養士が中心となり法人内3か所のグループホーム職員と共に月に1度のペースで開催しておりご家族や介護相談員、母体職員や利用者が参加されています。メニューはコーヒー(ドリップ)紅茶・ケーキ(管理栄養士が季節感のあるものを選びバイキング形式で提供)です。ミュージックカフェなので歌やギターの弾き語り、オカリナ演奏などを行っており皆様楽しみにされています。今後は利用者のみならず多くのご家族や地域の方にも参加して頂ける場となる様考えております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成31年1月22日	評価機関 評価決定日	平成31年3月16日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>  
◇ 理念に基づいた利用者本位のケアの取り組み  
・職員は、理念の「大切な人だから…一人一人を尊重し、明るく家庭的なゆとりある生活」を理解し、利用者が寛げる環境の中で、①認知症の緩和②自立支援③日常生活の充実と、利用者本位のケアに取り組んでいる。  
◇ 利用者の自主的で積極的な日常リハビリへの参加  
・利用者は洗濯物を干す・収納のほか、清拭タオルを畳む・巻く作業や下膳・食器洗いなどを自主的にするほか、音楽療法士による回想療法や理学療法士指導の生活リハビリなどに積極的に参加している。  
◇ 法人内各事業所との連携の充実  
・近隣の法人内の介護老人保健施設、クリニック、グループホームなどと連携を図り、研修・車両貸与・栄養・調理指導や行事への参加のほか、利用者へのリハビリ・往診・看取りや緊急時の支援体制が出来ている。  
<事業所が工夫している点>  
◇ 事業所と利用者・家族との関係を密につなぐ  
・年2回の家族会の開催や利用者の様子を、家族に毎月報告書で知らせるなど、家族とのコミュニケーションを大事にして、安全と信頼につなげている。  
◇ 地域に密着した事業所運営をめざす  
・昨年ミュージックカフェを開き、将来は地域の福祉拠点化を目指している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ウェルケアSun
ユニット名	大地

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/>	1, 毎日ある
	<input type="checkbox"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="checkbox"/>	3, たまにある
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="checkbox"/>	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="checkbox"/>	3, 家族の1/3くらいと
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ毎日のように
	<input type="checkbox"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="checkbox"/>	3, たまに
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/>	1, 大いに増えている
	<input type="checkbox"/>	2, 少しずつ増えている
	<input type="checkbox"/>	3, あまり増えていない
	<input type="checkbox"/>	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="checkbox"/>	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 職員の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="checkbox"/>	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①認知症の緩和②自立支援③日常生活の充実の運営基本を理解して、多忙な業務の中でいかに実践するか考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「理念」や理念の「実践方法」を玄関に掲示し、職員は会議等で話し合い、理解した上で忠実に実践している。</li> <li>・日頃のケアや計画も、理念や「実践方法」と照合し振り返り、向上に繋げている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校特殊学級の訪問、町内の運動会への参加等交流に努め、町内会の行事等の案内を運営推進会議の場で町内会長から発信して頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会に加入し、地域情報は回覧板や運営推進会議委員の町内会長より得ている。</li> <li>・町内会の運動会への参加や農家から野菜を買うなど、地域との交流を深めている。</li> <li>・カフェを開き、地域密着の企画を進めている。</li> </ul>	・6月にミュージックカフェ「アウリンコ」を開き、利用は同一法人利用者、家族、関係者と限定的ですが、地域のコミュニティー・福祉拠点化の場として更に広げていくことを期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	喫茶をオープンし地域包括支援センターや介護支援相談員の方々に今後は地域の方の参加も視野に入れているとの報告を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて活動状況報告を行い利用者対応やサービスの提供状況を評価して頂いている。具体的な家族の要望、想い、助言等も頂いて改善に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員は家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、他の福祉施設管理者で、2か月毎に開いている。</li> <li>・事業所からの活動報告のほか、委員との情報交換や要望が主である。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港北区依頼の介護相談員の受け入れを実施し具体的な利用者の要望把握に努め、改善に役立っている。相談員の研修受け入れや年1回の三者連絡会にも参加し利用者対応に役立っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活保護や介護保険の手続で区担当者とは日頃から連絡を取り合っている。</li> <li>・介護相談員は利用者との面談を支援するほか、介護相談員・事業所・区担当者との連絡会にも参加している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者本人の生活状況を常に把握して安全で快適な生活を提供出来るよう取り組んでいる。夜間は安全の為玄関施錠は行っている。	・職員は入社時に身体拘束に関し学び、その後は、折に触れ研修や会議で、利用者への身体拘束防止や不適切な言動を話題にして、学んでいる。 ・不適切な声かけを、職員間で機会を設け注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の自己点検を行うなど虐待防止の振り返りは行っているが、さらに全職員対象の研修等学習の機会を設ける事を考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員で学習機会に差があり意識にもずれがある。12月より後見人制度を使われるご利用者がいらっしゃいますので、学習機会を多くする予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に分り易く権利義務を明示し十分に時間をとって説明し本人及びご家族の理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会で要望等を聞いている。職員は利用者との話の中で、要望等を把握し内容によっては家族に相談し実施に向けてサポートしている。	・クリスマス会や夏祭りにあわせて家族会を開いている。 ・家族や家族会の意見・要望を受け、初詣や大手スーパーのフードコートなどに出かけることになった。 ・家族へ利用者の体調・生活の様子を毎月報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案のある職員と何も言わない職員との差があるので、個々に合わせて対応している。話をする機会は特に時間・場所は設けていないが随時相談に応じている。	・職員の意見・提案は申送りノートを利用したり、ユニットリーダーに相談するなど、円滑に機能している。 ・職員からの改善事例として、クリスマス会のプレゼント予算の引上げや風呂場の排水溝の改良工事などがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より良い環境を整備する事を目指して、入居者及び職員を取り巻く環境に合わせて職員の勤務の調整などを行っている。夏、冬各3日ずつ季節休暇を提供している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は母体のウェルケア新吉田にて研修を行い、全職員対象の法人内GH合同の研修も実施してスキルアップに役立っている。介護福祉士等の資格取得のサポートも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に所属してネットワーク作りに努めている。また、同じ法人内のグループホームとの月1回の管理者会議や研修を行いサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴を知ることで今の生活スタイルを理解し、それになるべく近づける様に努力している。利用者から様々な話を聞く時間を多く持ち、信頼して頂ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面接時、ご家族の不安や疑問に答え、本人とご家族の思いに沿った生活の提供の為、援助方法を共に考えてホームで出来る事を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にホームの見学をして頂いている。その際グループホームの説明をし利用者にご家族の要望に沿っているかの話し合いを持っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のADLを確認し出来る事があれば職員と一緒にして頂き、出来ないことはお手伝いする様にしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報告書を通じご本人の情報をお知らせしています。又、希望等をお伝えし可能な限りご家族に関わって頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのパーマ屋に行ける様にご家族と話をしたり、ご家族に定期的にホームに来て頂き共に外出して頂くよう依頼している。	・利用者と友人との交流は減りつつあるので、利用者と社会の繋がりを維持するために、ショッピングモールへの買物や馴染みのお店に行く機会を設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に合わせた役割分担を同時に行うことで、皆が楽しく話しながら作業をする喜びを提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者のご家族より亡くなられたとのお知らせを頂く事が多々あります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の意思をしっかりと伝えられる様なコミュニケーションをするよう努めています。意向を伝えることが困難な時はこうしてほしいんではないかと思いつながりながら対応しています。	・管理者は、入所前より、本人・家族から、思いや意向を聴取している。日々の情報を申し送りや個人記録に記入して、職員間で共有し、支援に活かしている。 ・意向の把握が困難な場合は家族から情報収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の記録等を読み、他はご本人、家族からの話を聞きながら情報を頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方は把握しています。心身の状態の変化は見過ごさない様、早い対応が出来る様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとり担当を決めケアプランの作成、カンファレンスを行い、他職員とも情報交換しより良い生活が出来る様努めている。	・3か月毎にカンファレンスを行い、6か月毎に介護計画の見直しをしている。 ・居室担当者の意見、医療関係者の助言、家族の希望等をもとに、計画を作成し家族に内容を報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子をみながら職員との情報、記録等を共有しながらご本人にあったプランを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活がご本人に合った無理なく過ごせるようケアプランに基づき対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来て頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に毎月医師、看護師の訪問を受け安心して受診できるよう医療機関との連携を行っている。歯科医も週1回来られ口腔ケアと治療を行っている。	・利用者は本事業所の母体医療法人のクリニックをかかりつけ医としている。 ・事業所に眼科・皮膚科・歯科医等が訪問して診療のほか、機器を持参し点滴、心電図検査なども対応している。”	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用様に変化があれば訪問看護師に報告して指示に従っている。訪問看護は24時間対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や入院時は主治医より紹介状を書いて頂きスムーズに受診、入院が出来るようにしていただいている。入院時は情報交換も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における対応」について説明を行い同意を得ている。また、終末期については医師や家族と話し合いを行いその方針をチームの中で共有している。	・入居時に重度化や看取りに関し、本人や家族の同意を受けている。看取り実績は6件で今年度は1件である。 ・終末期の場合には、家族・医師・看護師・職員が連携する支援体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って行っている。時々マニュアルを確認する様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルがありそれにそって行える様にしている。年2回の避難訓練も実施している。時々マニュアルを確認する様にしている。	・職員と利用者のほかに近隣住民も参加して、年2回、消防や避難の訓練をしている。 ・風水害に対する一時的な自主避難場所等を決めている。 ・災害の備えとして米、飲水や衛生用品も備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様が間違ってしまった時など傷付けないような言葉かけや対応をするように心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念の「大切な人だから」を受けて、利用者の一人一人を尊重し、個性や思いに配慮した支援をしている。</li> <li>・職員間で不適切な言動の場合は、お互いに注意しあって確認をしている。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者本人の希望を聞くようにしている。職員からの提案も実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとり楽しみ方が違うのでその方の意向に沿うように心がけているが職員の数が少なくあまりできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容が出来る様にして頂き、見守りが必要な方には一つずつ順番に整容を行える様にしている。ご自分で出来ない方には職員が行い、洋服も合ったものを選んでいく。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一人ひとりの好みや嚥下状態に合わせて提供している。盛り付けにも気を配っている。食器拭き等は車椅子の方も出来る様食席でみんな楽しく行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の管理栄養士監修で、味にこだわった副食が配達され職員が調理を行っている。</li> <li>・利用者に応じて常食、柔らかか食、嚥下食、ミキサー食を提供し、利用者はふりかけや納豆などを添えて、食事を楽しんでいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事介助時は毎回全量摂取を目指しているが、ご本人の体調等様子を見ながら提供し、1日トータルでの栄養、水分確保を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に合った口腔ケアを定時に実施し、利用者によっては定期的に歯科衛生士にも実施依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用し個人ごとの誘導時間を設定している。ご自分でトイレに行こうとされない時は声掛けをして排泄を促している。便が出たら職員に教えて頂くよう張り紙もしている。	・排泄実態は全介助が4人、1部介助が8人いるが、トイレ排泄が出来るように見守り、促している。 ・排泄表で個人毎の間隔を把握し、受け止め方も考慮して声かけ表現を変えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に関して残されていると声掛けはしている。リハビリなどはあまりできていない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	気持ちよく入って頂ける様誘導の声掛けも工夫しています。入浴時は一人ひとりに合った時間配分と介助方法で清潔保持と満足を提供出来るよう努めています。	・入浴は週2回が基本で、時間は午前中に約30分である。 ・入浴忌避の方には声かけの方法を変えたり、家族の協力を得て対応している。 ・入浴時に利用者は職員との会話が楽しめる機会があるほか、菖蒲湯やゆず湯もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じ、午睡して頂いたり、安眠できるよう環境整備や室温調整等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を服薬されているかはほしい理解できているが、薬の副作用など分からない点は説明書を読んで確認しています。また、薬による症状の変化の確認も行い医療につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションも交えて会話を楽しんだり、レクリエーション等も行い、お散歩や外気浴を行い気分転換して頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時間を作り戸外へ出かけられるよう努めているが、実際少人数の利用者に限られてしまっている。代替策としてプランターに花を植え玄関での外気浴を行っている。	・天気の良い日には近くの公園に出掛ける利用者もいるが、最近はベランダや玄関先の花壇を見ながら、外気浴をする利用者が増えている。 ・家族の協力を得て、外食やなじみの美容院やパン屋に立ち寄る外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお小遣いをもって買い物に行ったとき、利用者によってはご自分で支払いをして頂いています。お金は基本的に施設預かりとしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話の希望があれば電話をかけられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者が不快にならない様清掃や安全面にも配慮しています。トイレには業者依頼の消臭設備を設置し防臭に努めています。季節感のある装飾も実施しています。	・居間にはテレビの前にソファがあり、3卓のテーブルで寛ぐほか、壁には小学生からの手紙や写真などを掲示し、季節感を演出している。 ・冬は大型の加湿器を利用し湿度管理に気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が一人になりたい時は居室で過ごす時間を大事にしています。又、気の合う利用者様が楽しく会話出来る様席替えを行いました。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向に沿った望まれるものを家族の人に相談して持って来て頂いています。居室が居心地がよくなるよう整理整頓を行っています。	・居室にはエアコン、レースカーテン、照明が備えられ、担当職員が利用者と共に、整理整頓をしている。 ・利用者は居室にベッドや好みの家具を持ち込み、壁には家族写真などを貼り、自宅のようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立している方には役割分担をして出来る事をやって頂いています。お庭の水やり等も手伝って頂き自然に触れて楽しんでいただいています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

ウエルケアSun

作成日

平成31年3月16日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	ミュージックカフェ「アウリンコ」を開いたが、利用者は同一法人利用者、家族、関係者と限定されているので地域の方も参加できる場所となるように考えていく。	「アウリンコ」のスペースを同一法人利用者、家族、関係者以外の方がも利用できる場にする、	運営推進会議にて、町内会長、民生委員、地域包括胃炎センター、他施設の方々に事業内容を報告し、委員の方や知人への紹介をお願いし、地域の方々に「アウリンコ」を知っていただき、利用していただく。	1年
2			も		
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。